

## 練馬図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和4年10月28日（金） 14時～15時
- 2 場所 練馬図書館 会議室
- 3 出席者 利用者 5名  
図書館 5名（練馬図書館長、副館長、職員、主任図書館専門員2名）  
生涯学習センター 1名（所長）
- 4 テーマ 「地域の特色ある図書館」
- 5 配布資料 (1) 練馬区教育要覧（令和4年版抜粋）  
(2) これからの図書館構想（概要）  
(3) 練馬図書館の現状
- 6 次第 (1) 練馬図書館長挨拶  
(2) 職員紹介  
(3) 参加者自己紹介  
(4) 懇談・意見交換

### 練馬図書館利用者懇談会 会議録

#### 1 練馬図書館長挨拶

日々ご協力いただきまして、ありがとうございます。

本日、司会進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いたします。

最初に、お配りした資料を確認していただければと思います。

アンケートと利用者カードはのちほど回収させていただきます。

次第のほかに資料が3種類あります。

コロナになってから会議は短くということで、1時間で設定させていただいています。

また、会議の記録を作りますので、本日はそのために録音させていただきますので、よろしくお願いたします。

それでは、最初に、次第に沿いまして、職員の紹介から始めさせていただきますと思います。

#### 2 図書館職員紹介

練馬図書館副館長、職員、主任図書館専門員2名、生涯学習センター所長

#### 3 参加者自己紹介

#### 4 懇談

利用者 懇談会をウィークデーに企画されたというのは何か理由があるのでしょうか。

図書館 この何年かは、木曜日に設定させていただいていて、その前は土曜日にやって

いたこともあると聞いています。

図書館の利用者は、いろいろな方がいらっしゃるかと思いますが、中に多いのは、平日に繰り返し来られる方、毎日来られる方もかなりたくさんいらっしゃっていますので、そういった方にも参加しやすいかなということで、この頃は平日でやらせていただいております。

固定しているわけではないので、また年によっては土日とか、そういう時間にも設定できればと思います。

ただ、この部屋は、土日はできるだけ臨時閲覧席として開放したいという思いもありまして。時間をどうしても潰してしまうというのと、この部屋の使い勝手ということもありまして、平日に今のところはやっているところです。

**利用者** 今年が初めてなのですか、平日開催は。

**図書館** 金曜日になったのは今回が初めてですが、去年までの3年間は、木曜日に設定させていただいていました。

今日はお越しになっていないのですが、木曜日は毎週ブックスタートを午前中にやっています、ブックスタートの会の方にも、そのままご参加いただいたりしていたので、木曜日で3回はやったところです。

最初に、私から、この1年の練馬図書館の動きとか、練馬区立図書館としての動きなどを説明させていただきまして、それから、また皆様からご意見等を賜りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

今日は、次第以外に三つの資料をお配りしているのですが、その最初の資料1の教育要覧の抜粋と、これからの図書館構想の概要。この概要資料については、恐らく、全部の図書館懇談会で同じ資料を配られると思います。

今、練馬区では、新しい「これからの図書館構想」というものの策定を進めております。

皆様は、私たちよりよくご存じだと思いますが、現在は、「練馬区立図書館ビジョン」これに基づいて、様々な事業をやっているわけですが、これが策定されたのが平成25年ですので、来年度でちょうど10年になります。これを策定したときも、ここから先、おおむね10年の間にやることということで、いろいろと計画を立てたわけですが、いよいよ10年経ちましたので、では、次の新しい構想を、ということで、今進められています。

今回、新しいこれからの図書館構想ということで、今年の6月に、皆様もご覧になったと思いますけれども、素案という形で公表させていただいて、この素案に基づいて、皆様からのご意見をいただきたく、いろいろなところからご意見をいただいて、それを基に、また案というものを見直して、もう間もなく11月に策定へと進むということを目指しています。

ですので、11月に策定できましたら、この「素案」も「案」もなくなって、これからの図書館構想という形で、皆様にお配りできるようになると思います。現在、そういう流れで進められております。

これからの図書館構想の中身については、こちらの概要をご覧いただきたいと思います。

現在、これから先10年間で、こんなことを柱として考えてやっていこうというものが四つあります。

1番目が、世界の情報・知識を届けるということで、世界とつながろうというようなイメージです。

コロナになって、なかなか人の往来が止まってしまったというところもありますが、また、ようやく、ここ何か月か、今年に入って半ばぐらいから、大分、人の出入りができるようになったかなと思います。また、多分、もうすぐ、前のようにいろいろな人たちと、いろいろできるようになるかと期待もしているところではあります。

そういう世界とのつながりというのが1番になります。

2番目が、練馬の文化を次世代につなげ、発信するというところで、では、練馬はどのような特徴があるのかということをしてPRしていこうということがあります。

今回、この練馬図書館の利用者懇談会は、地域の特色ある図書館というテーマにさせていただいたところですが、では、練馬はどのようなものなのか、練馬区の図書館というのはどのような特徴をもったものなのかということ、ぜひ皆様から、今日のご意見いただきたいと思って、そんなテーマに設定させていただきました。テーマを考えた理由は、この辺りからになっています。

3番目が、交流が生まれ、新たな知が創造されるというテーマになっておりまして、今まで、割と図書館は、図書館と対利用者、個別のやりとりというような、そういうイメージが結構強かったかと思うのですが、ここを、こういう場として、また、いろいろなつながりができるような、そういう場としても利用できる、そういうものではないかというようなことが、ここにあります。

最後の4番目が、デジタルということで、これに関しては、前の図書館ビジョンではあまりなかったかと思うのですが、ここ数年で大きくいろいろなことが変わったかと思っています。

特に、コロナになってからは、図書館に行かなくてもできるサービスとか、そういうものもいろいろと考えていかなければいけないのではないかなというようにもなっておりまして、デジタルでいろいろできることをやっていこうというようなことが4番目のコンセプトに入っています。

図書館構想は、このように今進められているところです。

最後の資料で、練馬図書館の現状というのをご覧いただければと思います。

この1年、こんなことがあったということを少し書かせていただきました。

昨年利用者懇談会の10月ぐらいから、ようやくいろいろな事業をやるようになりまして、その前の時期は、まだ緊急事態宣言とかいろいろあったので、イベントを制限していることがありました。

振り返ってみると、今年に入ってから第6波とか第7波と呼ばれている大きな感染拡大時期がありましたけれども、最近では、あまり強い制限をかけられることはなく、今年当初に、まん延防止等重点措置というのが東京都から出て、いろいろと制限等もあったところですが、図書館に関しては、特にそれまでと変わることもなく、大体いろいろな事業を進めさせていただいております。

それが終わる3月に、一旦、波が収束に向かったところで、それまで、図書館の利用は2時間までにしてくださいというお願いをしていたのですけれども、そういう時間については表示しないようになりました。できるだけ、長時間の利用はご遠慮くださいぐらいの表現になっています。

今年の6月に、厚生労働省からマスクの着用についてというのが突然出てきて、そのとき、しかもその突然の中に、図書館というのが入っていて、図書館はマスクをしなくてもいいというような、そんなのがあったので、非常にびっくりして、大変いろいろな対応があったのですけれども、ただ、そのときの表現は、2メートル距離が取れて、会話もしない。それだったら別にマスクをしなくてもいいよという、そういう表現だったのです。

例として挙げられるのが、図書館で本を読むことということになっていたのですが、それで、どうしたらいいのかということで、練馬区立図書館として考えたところだったのですけれども、これが6月以降はずっと言ってきているのですけれども、図書館としては、厚生労働省の発表のとおり、2メートルの距離が取れて、しかも全然会話しない、動かない、一つのところに止まって読んでいるような、そういうことだったらしなくてもいいけれども、でも、できるだけマスクはしてくださいというような、そういうようなことになっています。

厚生労働省は国全体のことを指しているのですが、イメージとしては、図書館といたら、結構広いところで、あまりそんなに人がいなくて、静かに本を読んでいるということで考えられたのかなと思ったりするところなのですが、2メートルの距離を、この図書館で取るというのは難しい状況です。

この2メートルを取れるとか、あるいは、しゃべらないとかという、これは今もお願いをしているところです。

人によっては、隣に座られた方がマスクをしていないと、注意してくれないと言われる方もいらっしゃいますし、いろいろな方がいらっしゃって、中には、体調のことでマスクをできないのですという方もいらっしゃる等あります。その都度、その都度、考えながら対応させていただいているところです。

去年の10月ぐらいから、いろいろイベントごとが回復しまして、それ以降は、今に至るまで、特に休止ということではなく、続けさせていただいているところです。ただ、今日も皆様に連絡カードを書いていただくわけなのですけれども、今でも、もし万が一、あとで連絡しなければいけないときがあったら、連絡させていただきたいので、連絡先だけは、できるだけ書いていただきたいというお願いは続けているところです。

去年のちょうど1年ぐらい前から、アルコール噴霧器と、あとは、除菌機を置かせていただいている、除菌機の利用も、1年前は1日10件ぐらい、最初は10人ぐらいだったのですけれども、今は、大体、1日二十何人か出てきたので、除菌機は少し利用が増えているところです。アルコールは前より持つようになったので、前よりはアルコールをあまり使わなくなってきたかなというようなどころがあります。

あと、閲覧席。しばらくは、真ん中の席を1個おきにしてくださいという時期があ

ったりして、1年前は割と、7、8割くらい戻っていたのですけれども、コロナになる前の状況、そこまで、100%までは、この図書館では戻っていません。

前は結構、大きい椅子に、何人かでも座れるような形をしていたのですけれども、大きい椅子はなくなったというか、古いというののもあって捨ててしまって、小さい椅子に変えましたので、総体の人数としては100%までは戻っていません。

いろいろと工夫して、3人並びで真ん中を使えなかったのを、形を変えて3つとも使えるようにしたりして、そういった工夫をさせていただいておりまして、できる限り席を使える人が多くなるようにという工夫をさせていただいております。

事業につきましては、ほぼ昔のとおりに行っているわけなのですけれども、やめてしまったものもありまして、読み聞かせが、いつも日曜日の午前中と水曜日の午後に、週2回やっていました。

そのうちの水曜日の午後の読み聞かせは、なかなか平日の午後で、子どもが、みんながなかなか集まりづらいということもあって、毎回、結構人集めに苦労していたのですけれども、それをどうしようという話を中でしまして、それをやめて、その代わり空いた水曜日に別のことをやろうということになりまして、今やっているところです。

乳幼児向けのおはなし会は、今まで第2金曜日の1回だけだったのですけれども、それを第1水曜日にも1回入れるようにしまして、それ以外にバックヤードツアーというのを企画して、毎月1回、これは第2水曜日の午後にやっています。大体、四、五人から、七、八人というときもありましたけれども、夏休みは結構多かったかな。地下の閉架書庫は普段は人が入れないので、よく、子どもたち、小学生などは見学に来てもらっていたところなのですけれども、一般の人はなかなか入れないところなので、皆さんにも見ていただけるようにということを月に1回始めさせていただいております。

そういった形で、やめてしまったものはありますけれども、代わりに、またいろいろと新しい取組も始めています。

新しく始めたことの一つには、高齢者向けのスマホの体験会とかというのもの、これは東京都が力を入れてやっているところなのですけれども、それに協力して、この練馬図書館でも開催したりしているところです。

最後は、工事の関係なのですけれども、元々コロナになる前は、今頃、大規模改修が終わって、新しいピカピカになっているはずだったのですけれども、ちょうど今ぐらいが出来上がる時期だったのですけれども、コロナでお金がないから延期しますということになりまして、ここの建物については、いつ大規模改修するかという時期が全く未定ということになりました。

でも、30年以上たって、いろいろと、あちこち補修しなければいけないところがあるということで、今年は生涯学習センターが中心になっているのですけれども、施設管理課といろいろ協議をして、今、工事を進めているところです。

今年の7月から12月にかけて、今日も、入ってこられるときに周り全部、足場が組んであったかと思うのですけれども、工事をずっとやっています。

今やっている工事は、何をやっているかといいますと、主に二つあって、一つが屋上の防水です。

今まで屋上には、こんな玉砂利がいっぱい、このぐらいの厚さでずっと全面に敷き詰めてあって、それは断熱とか、防水を保護するとか、いろいろな目的のためにあったみたいなのですけれども、それを取っ払って、新しい防水を今、全面にやっていただいているところです。

ここはご覧のとおり、すごい、みすぼらしいと言ったらなんですけれども、あっちこっちで本当に雨漏りがありまして痛んでしまったので、今回、屋上の全面を防水の工事をやっています。

もう一つ、工事で大事なことが、ここの建物は全部周りがタイルですので、タイルが実は一部落っこちる可能性があるということで、実際に部分的に落ちてしまったというところもあるのですけれども、それが落ちて人に当たってしまったら、大きなけがをすることになってしまうというので、ピン留めをするという工事をしています。一つ一つのタイルはこれぐらいの大きさなのですけれども、結構重いので、それを本当に一つ一つ穴を開けて、このぐらいの長さなのですけれども、ピンを打ち込んで落ちないようにするという工事を進めています。

何といっても、一つ一つをやっているのです、それで穴を開け、そこにピンを入れ、ボンドのようなものを入れてというのを一人でずっとやっているのです、どうしても工事に時間がかかるということで、12月までを予定しています。

屋上と、あと周りのピン留めなので、工事が終わったらどれだけきれいになるのだと言われると、何も変わらないのですね。周り全部を囲っているのです、今度は違う色になるのではないとか言われたりもするのですけれども、ただ洗浄しているだけなので、何も変わらないという状況です。

ただ、何せ、そういう本当に一つ一つやる工事なので時間がかかっていることになっています。

あともう一つ、もうちょっと大きいのは、目の前のサクラの木が、いろいろと大変な状況になってしまい、切られるということになりました。

今、一番、正面にあるのが、練馬の銘木として指定されていたサクラの木ですけれども、どうしても、腐朽が進んでしまって倒木のおそれがあるということで、あれだけ大きな木が倒れたら大変。本当にどんな被害が起きるか分からないということで、台風が来る前ということ、いろいろと作業を進めさせていただいたところです。

今、1メートル少しぐらいの高さまで切らせていただいて、今のところはそのまま。この状況でしばらく様子を見ようということになったと聞いています。

1年間こんなことがありまして、おかげさまで何とか今日まで来たところです。申し訳ありません、30分も経ってしまったのでございますけれども、これから、ぜひ、皆様に練馬区の特徴について、ご意見をぜひいただきたいと思っております。

**利用者** 今のお話のサクラは、あれだけ残しているのは様子を見るということなのです

か。

**センター** 樹木診断の結果、地面から30センチのところでは75%の腐朽率ということで、高さ30センチで輪切りしたところで、75%はもう腐っている状態です。

樹皮は、見た目上、健全に見えるのですけれども、中身は75%が腐っているということです。

**利用者** お話があったときに大変でしたから、全部根元からきれいになくなるのかと思ったら、物欲しそうに少し置いてあって枝が出てきたりしているから。

**利用者** サクラの寿命からいっても、ある意味でしょうがない、かわいそうだけどということ。

**センター** 寿命的には70年以上は経っています。

**利用者** 外壁のあの色をつけるときにすごい問題になったじゃないですか。使う色が。けれども、今、サクラがああいうふうになって、木が鬱蒼としたら、あまり皆さん、もう慣れたのか気にしないのですけれども、私たちが知っているのは、あの色になぜしたかというのは、すごい、また大変だったのですよね。

ベージュとか、ああいう色になるかと思ったら、何かすごい色だったので。あの頃はすごい話題になって、みんな、あきらめてこんな色になったという感じでした。

でも、サクラが咲いたら、サクラを見ていると気にならなくなってしまったのですけれども、もう今は気にならないみたいですね。皆さんね。

**図書館** この色になってから、もう三十何年か経ちましたので。当時は、豊玉公園のタコも同じ青だった時代もあったかと思うのですけれども、タコは、今は赤に戻っていますけれども、ここはもう青ということで定着しているように思います。

**利用者** 予算の都合で、業者で余っている色があの色だったとか聞いたことがありますけど。古いのは知らないのですが、私もよく分かりませんが。

サクラのお話はかなり大変で、切るときも大変だったようなので、そういう意味では、ある意味ではかわいそうだけれども、諦めるしかありませんね。

**利用者** 樹木医さんも、いろいろな方がいらっしゃるでしょう、ご意見の方が。かなりメンテナンスで寿命が延びるという話を。原則は六、七十年だけれども、かなり延びるという話は聞いています。

光が丘も8本を去年切ったのですけれども、そのうちの半分くらいはひこばえが生えて、全く再生していないところもあるし、ひこばえが生えているところもありますので、一律に判断するのは難しいのかな。低木のときに、全部正確な判断をするというのは、かなり難しいことなのかという感じはします。

**センター** 今回の伐採した木の生えている位置が、施設の入り口というのと、道路のすぐ目の前ですので、残すことが難しい状況でした。

**利用者** ある意味、なったらなつたで、今度は、あそこには本当は何もなかった方がよかったのではないかと。入り口なので。

あれは、元あった公民館の木を持ってきたということですが、本来、入り口は、何もない方が皆さんも入りやすかったのではないかなと、なくなってみると思います。

**図書館** 練馬区は、本当に緑については、とても力を入れて、それもひとつの特色になっているかと思います。

目の前のサクラの木も、元々、大規模改修工事を計画していたときにも、あそこだけは何とかそのまま残すのだということで、本当に手をつけないように、あるいは、サクラの木の樹勢が少しでも弱くなったりしないようにと、そういう、工事のことをいろいろと考えていたところですけども、今回たまたま周りの工事と時期がぶつかってしまって、逆に、この工事のために切るのではないかというように思われた方々もいらっしゃったようですけども、実際には、あの木をとにかく大切にしようということで、みんなで計画してやっていたところです。

本当に腐朽してしまったということで、隣にも、もう1本サクラの木があって、そっちなどは、本当にキノコがいっぱい出てしまって、かなり危ない状況にもなっていましたので、いろいろと判断がされて、伐採ということになったところだと聞いています。

すみません。なかなかお時間もない中で申し訳ないのですけれども、練馬の特色ということで、緑ということもあります。

練馬区が、これまでに割とよく打ち出してきているのは、都市農業であったりとか、あるいはアニメーションであったりとか、また、最近では映像文化というようなことで、練馬区には、東映撮影所があったりとか、あるいは、日大芸術学部があったりとか、そういった芸術関係の部分、そういったところも特色なのではないかということでは言われているかと思います。

そういう練馬区としての特色というの、これからどんどん打ち出していかねばいけないのと、あとは、区立図書館は12館と分館が1館あるわけですけども、それなりに特色というのをもう少し持つということが必要なのではないかということもあるかと思っています。

練馬区の図書館の中では、例えば、稲荷山図書館であれば、稲荷山は前から昆虫というのがテーマになっていて、昆虫の標本であるとか、昆虫に関する資料をたくさん集めています。

また、今、改築が進められようとしている貫井に関しては、美術館と一体の施設になっていますので、美術が一つのテーマということで、これまでも進められてきたところです。

では、練馬区立図書館の中の、この練馬図書館の特色は何だろうということをいつも私たちは考えているところなのですけれども、練馬図書館は何だろうというと、練馬区の中で一番古い図書館。最初の図書館ということなので、練馬区立図書館の中では、練馬区に関係する昔の資料のようなもの、行政関係の資料などは結構残っているかと思っています。

また、区の行政の元締めというか、区役所本体が目の前にあるという立地なので、そういう意味では、行政に関わることに限っては、これからも、この図書館が、全体の中で一つの役割として担っていけないところではないかなとも思ったりしているところです。



**利用者** 質問なのですけれども、今度、貫井図書館と美術館のプランが出ていまして、そこの共有スペースで、非常に、特に美術館の館長の発言が、とても気になっているのです。図書館に資料のアーカイブスとか、貫井でやってもらいたいみたいなことを言っているのですね。そこは非常に問題。図書館側のプランだと、情報共有したいということなので納得できるのですけれど。

そこで、練馬図書館のことをお訊ねしたのですが、ここは生涯学習の施設と併設していますよね。何かあるでしょうか。ここまで協力しなければいけないとか、空調関係を共有しているというのは分かるのですけれども、その他に何か共有していることというのはあるのですか。資料の棚は別ですよ。

**図書館** この建物の中でいうと、生涯学習センターと図書館は、共有部分というのはそんなに多くなくて、この1階の部分ぐらいしかなくて。

**利用者** 入り口。

**図書館** そうですね。あとは、全体として、例えば空調であるとか、そういう機械関係はもちろん共用なので、全体として、管理はほぼ生涯学習センターでやっていただいているところですが、一つのもので全部運用させてもらっています。

ただ、そういう資料関係のようなものとか、事業に関するようなものに関しては全く分かれていますので、同じところに何かを置くというようなことはないです。

併設ということなので、いろいろと思っているのは、図書館としては、こういう会議室がこれしかないのですけれども、例えば、子どもの事業をやるとき、よく、人形劇とかをやったりしますけれども、そういうときには生涯学習センターの和室を使ってやったりとかさせていただいています。生涯学習センターには、いろいろな大小様々な部屋がありますので、そういったものを私たちの事業でも使わせてもらっています。

かつて、私は、昔、公民館で働いていたのですけれども、公民館にいた時代は、まだインターネットなどもない時代だったので、何か事業をやるといって、図書館に来て、本当に閉架にこもって、いろいろと調べ物をさせてもらったりしていたという時代。昔は、そういうこともありました。でも今は、なかなかそういうところまではないのですけれども、でも、協力しながらやらせていただいているところです。

先ほどの美術館と貫井の具体的なことに関しては、まだまだ、これから協議されることだと思いますので、皆様もいろいろな思いがあり、いろいろな発言をされるかと思いますが、詳細については今後いろいろと詰めていかれることになると思います。

**利用者** ここは、Wi-Fiなどで会議できるのですか。この会議をzoomで、よそでも見られるようにできるのですか。

**図書館** 練馬フリーWi-Fiというのが入っています、1階はほとんど電波が通じると思いますので、この部屋でも使ってやったことがありますので、ここではできます。

利用者　　そうですか。

図書館　　できます。ただ、2階の生涯学習センターは電波が弱いところもあるのではないかと思いますので、どの部屋でもできるかというのと、どうなのですかね。

センター　基本的には、ホールも含めて、電波は多分届くと思います。

外部から、皆さんがお持ちのタブレットとか機器を持ち込んでいただいて、通信は可能だと思います。

図書館　　今は結構、健康の関係の講演会などで同時中継みたいなものがあつたりもします。ですので、そういった際には、ここで映像を映して皆さんに見てもらおうというようなこともやらせていただいています。

利用者　　例えば、ここに入り切れないような上映会をしたいというときに、センターを使う優先権みたいなものはあるのですか。

図書館　　具体的に、そういう決まりがあると言われると、別に、何かそういう決まりがあるというわけでもないのですけれども、それは一つの建物の中で一緒にやっていますので、協議しながらその都度やらせていただいております。

利用者　　練馬図書館の特色ということで手を挙げたのです。いいですか。

練馬図書館の特色で考えたのは、区役所の裏にあるということとか先ほどおっしゃったように、生涯学習センターと併設しているということ、私たちの活動を支えてくれるというか、どこの図書館も、もちろん私たちの活動を支えてくださっているのですけれども、専門員館だということも大きいと思うのですけれども、難しいレファレンスとかは練馬図書館に頼ろうかなとか、そういうふうなイメージというか、他の図書館でなくて、練馬図書館の特色として、行政資料とかは、私たちが、結構分かりにくいですよ、自分で調べていくには。

そういうレファレンスとか、そういうことをしっかりやっただけだと、区役所の近くということで、行政資料のレファレンスとか、そういうことを、今頼りになるということで、それで、指定管理化は少し延びたので、本当に先の話になるけれども、どうなるのかというのは、私はとても不安です。利用者としては、なので、できれば、今までどおり専門員館で、直営で残してほしいなというのが、私たちの思いです。

私はそれほど頻繁ではないのですけれども、会議室を使わせていただいたり、あと、練馬図書館に来て楽しみなのは展示です。

テーマ展示がしっかりしていて、去年だったか、選挙があつたときに、テーマ展示、時事展示だったのかと思うのですが、入ってすぐのところに、選挙関連の本が、きちんとブックトラックに乗ってあつたのがさすがだと思って。他に利用している館が何館かあるのですけれども、そこを見たら、光が丘図書館も他の館も、選挙関係は何もなかったのです。テーマ展示で、その時期に。

だから、そういうことに、練馬図書館は期待しているというか、すごく今はあります。

図書館　　ありがとうございます。

利用者　　同じように、専門員館として、非常に、私たちにとっては大事なというか、気になる図書館なので、これがすごく、今、不安。

要するに、改築で、いつどうなるかというのが全く見えてこないのがとても不安です。

指定管理化が決まっているとか、そういうことが情報として入っていて、それがいつからなのかとか、どうなるのかというのが全くないことが不安なので、どうなのかなというの。館としての館長さんなどは、どういう風に考えているのかなというのを聞きたいと思いながら出席させてもらいました。

**利用者** 今も出たように選挙の時の資料のトラックはよかったと思っていて、あれと関連していることは、区報で、例えば募集がかかることがあると思うのです。それに関しても、PRではないけれども、それはこういう本を読んだら分かりますよ、みたいな、連携したものがあるといいなど。

それはどうして思ったかという、読書推進会議に出席していますけれども、募集があって、公募で入ってきてくださった若いお母さんたちがいらっしゃるのです。一筆お書きになって、それを提出して、受理されてこの会議に入っただけという流れを知って、では、あの募集があったときに、参考資料のような、全部の人が募集しなくてもいいのだけれども、もしかしたら、どうしたらいいのかわからないというような方がいるのかなと思ったのです。

入っただけの方は、相当に優秀なママたちなのだろうと思っているのですが、次にもしそういうことがあって、また違う募集があったときに、それに合わせたような展示があるといいなと思いました。

これは大人向けのお話ですが、もう一つは、今度は子ども向けですが、朝の小学校の読み聞かせに入らせてもらっていて、いろいろなママたちと話をしたときに、練馬区の作家さんの話とかを、いろいろな方から教えていただいたことを受け売りで、さも知っているがごとく話してみると、びっくりされるのです。「えっ、この本が石神井に住んでいた方なのですか」とか、「同じところに住んでいたのですか」とか、「この人は江古田に住んでいたよ」とか、そういう人の紹介を、それこそ専門員の知識が入っているようなものがあつたら、さぞ喜ぶだろうなど。

例えば、いぬいとみこさんは、こんな本を書きました。と言うことももちろん大事なのですが、そこに、少し知識が入るようなものがあって、それを近隣の小学校に読み聞かせをしているようなお母さん、子どももそうだけれども、聴いていたりしたら、それを持ち帰って、今度、そのお母さんは、子どもたちの前で知っていることを話してくれる。そういう伝染が、見えないところでの伝染があるかなと、実体験としてありました。

知っていることを分けてあげられることがあってよかったなと思ったことが随分あるので、お願いしたいと思っています。

**図書館** ありがとうございます。

先ほどいただいたご意見でも、レファレンスに関して言うと、練馬図書館は、この練馬区の図書館の中では、ウェブレファレンスに対応している館で、ウェブでレファレンスがくると練馬で回答案を作って所有しているところです。

練馬図書館としては、レファレンスに関しては力を入れて、これまでもやって

きたし、今後も続けてやっていきたいと思っています。

また、展示に関して言いますと、展示用の期間を決めていろいろとやっているのがほとんどですけれども、結構、練馬図書館では、時期に応じてというか、いろいろなことを短期間でも展示しようということがあって、今だったら工事関係の展示なども実はやっていたりするのですけれども、別に元々予定していたというわけではないのですけれども、工事のことも利用者の方々に知っていただいた方がいいだろうというようなこともあって、その展示も今、かなりやらせていただいているところです。今こんな工事をしているのですよ、こんな機械が動いているのですよとか。

**利用者** シール（いいね！）を貼りました。

**図書館** ありがとうございます。

**利用者** テーマを何にしようというのは、どなたが決めるのですか。会議で決めるのですか。

**図書館** 自然発生です。サクラの木の話題があったりとか、工事のときとか、窓口にいると、利用者の方が、皆さんお訊ねくださったりするということで、では、こういうことがお知りになりたいのかなというそういったお声に基づいて、こういうことを聞かれたから、では、掲示に出したいものを館長に、もってきてくださいとか。工事の方に、外壁の青いタイルの実物も、館内に、これを使っていますというのを展示でご提供いただいたり、センターの方を通じて、屋上の写真を撮らせていただいたりというような、本当に皆さんのお声を聞いて、こういうことは確かに壁に幕を張っていたら分からないよねというようなものもあるので、そのまま館長のところへ行って、「館長、展示していいですか」というのが。

ただ、どうしても狭いので、本と一緒に展示というのはスペースが限られてしまうので、もっと本と一緒に展示をとという声にも尽くしていきたいけれども、この小さいトラックで全部というのが難しいところもあって、ただ、短期間でも、単発で、少しずついろいろな情報を出して、さらに、いいね！シールを貼っていただいた掲示板に何日に1回とか決めずに、こういうのはお伝えしていこうというような形で、ポン、ポン、ポンと掲示させていただいているので、逆に不定期なのであれですけれども、見ていただける場所は、みんなで作っているところかなと思います。

**図書館** あと、ご覧いただいたかと思いますが、入り口のところに「ねりったー」という名前で、私たちから皆さんにお知らせしたいようなことを、毎日ではできないですけど、月に二、三回お知らせするようなコーナーとかも、あれは今年の初めくらいからやらせてもらったりしています。

先ほどあった行政の関係などでいうと、練馬地域の、今、意見を募集していますよというようなことは、入った正面のところに表示して、皆様にお知らせができるようにということの工夫などもさせていただいているところです。

**利用者** 練馬図書館には、情報、資料とか、あるいはチラシも含めて、結構すごく分かりやすくあるので、いっぱいもらって帰っています。

図書館 ありがとうございます。

利用者 今、学校が、結構、読み聞かせというか、Padがあるので、それを読みながら、先生がスクリーンで、文章の理解をどういうふうにするかみたいな授業を結構しているのです。

各小学校がどんなふうに取り上げているかというデータは、図書館でもお持ちですか。各小学校でいろいろとやっているのです、どんな本が取り上げられているかなというのが分かったら、図書館にある本だったら、こうやって、今、これが人気です、みたいな感じで展示するとか、お子さんのために。

それから、今、読み聞かせ塾というのがあって、お勉強の塾だけではなくて、本を読みに行く塾というのがあるのです。うちの孫は今6年生なのですが、何人か行っているのです。

それで、そこに行って、その本を何時間か読んできて、お互いに理解して帰ってくるということだったのですけれども、行けないときには、それはオンラインでできるのです。そうすると、先生が読みながら画面の中でやるという、今は、そんな子どもたちの時代なので、そういうのも利用しながら、要するに、電子本が多くなってきていて。電子本がいいのかどうか分からないですけれども、学校は、まだそういう意味で、教科書だけではなくて、そういう本を使ったお勉強をしている場合もあるので、例えば、今これを読んでいるよという情報が入れば、今、近隣の小学校はこんなのが人気ですよというのを展示してあげると、小さいお子さんは学校に行くところこういう本を読むのかな、なんていうのも分かるのではないのでしょうか。

図書館 学校とは連携をかなりとって、いろいろやらせていただいておりますので、今後も本当にいろいろと。

利用者 本屋大賞など、今こんな本が読まれていますよと積んであって、人気ありますよと煽るような広告をしていますよね。

図書館も、これが人気ですよというような展示を。二十何人待ちとかいう、この間、80歳の方がいらして、そんな感じでしたけど。

図書館 人気のあるものは、何年もかかってしまうということもあるみたいで、本当にご迷惑をおかけしているところもあるかと思えますけれども、でも、皆さんが欲しい、読みたいという、そういうご希望のあるものは、できるだけ提供できるように、何とか工夫はしていきたいと思えますので、よろしくお願いします。

いろいろとご意見をいただきたいところですが、予定のお時間になってしましまして、これだけは言っておきたいということがあれば。

利用者 まず、この間の点字の講座はすごくよかったです。ぜひ、館長にお伝えしたい。副館長もいろいろありがとうございました。すごく楽しかった。

図書館 よかったです。

利用者 二部構成になっていて、私は前半にお邪魔をして、そうしたら、一人小学生の男の子が来て、後半にはお子さんたちがたくさん来たと教えていただいて、よかったですと思いました。

最後に、視覚障害者福祉協会の方が、点字本の「ぐりとぐら」を手で読んでく

ださって、それに合わせて掲げていたのですね、普通の本を。あの感じが、すごくよかったなと思って。実際に点字を読んで、それを音声にしてくださいということも、なかなか体験することがないと思うのですね。あれを、子どもたちの学習の中に入れてくれたらいいなと思って帰りました。本当によかったと思いました。

**利用者** その日は都合が悪くて参加できなくて残念だった。話を聞いて「すごく残念」と思ったのですけれども、また、もしよかったら、ぜひ。

**図書館** そうですね。また来年も。

**利用者** 別のところで、結構、点字はどういうふうにするのかというのが話題になったことがあって、この間、練馬図書館で開催するというのを伝えたのですけれども、もう終わっていたので、またぜひ機会を作っていただければと思っています。

**利用者** 実際にぼつぼつ打ってあって、どちらから触って読むかという掲示を館に入ったときに見られたので。

**利用者** 実際に打つというのは、なかなかないので。緊張しながら打ちました。

**利用者** 二、三年前、『くろはおうさま』という本をつくられた方の講演会もあって、点字とか障害者サービスに、すごく興味のある方がいるので、またぜひ、よろしくをお願いします。

**図書館** ありがとうございます。

今後も、皆様のご意見をいただきながら、皆さんに本当に楽しんでいただけるような事業も展開していきたいと思っていますので、どうぞよろしくをお願いします。

点字については、まだ「ねりったー」（掲示板）に載っていますので、見ていただければと思います。

本当に、今日は貴重なお時間、貴重なご意見をたくさんいただきましてありがとうございました。

恐れ入りますけれども、皆様にアンケートをお願いしておりますので、お書きいただきまして、回収させていただければと思います。

今日は、本当にどうもありがとうございました。